

あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL0551-25-5900

FAX 0551-25-5906

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信



穴山町泉竜寺のしだれ桜

新しい信和会を目指して



社会福祉法人 信和会 理事
特別養護老人ホーム 穴山の杜
施設長 栗原 徳昌



桜花爛漫の穏やかで快適な季節を迎えるはずでしたが、何とも痛ましい大震災になってしまいました。地震の大きさ、大津波、原発事故、2万人を超えた死者、行方不明者数など、誰もが信じられない大規模のものでした。テレビで放映されるすさまじい光景が脳裡から離れませんし、被災された多くの方々の心情を思うと言葉に詰まります。ひたすら1日も早い復興を祈るばかりです。ここ数年、日本をはじめ世界各地では地球温暖化の影響と思われる異常気象による災害が多発しております。この異常気象による災害や、インターネットの呼びかけに端を発した中東での市民運動、政治体制の混乱による様々な影響が徐々に世界経済や市民生活に出始めています。風が吹けば桶屋がもうかるの類ではないですが、世界のどこかで起こった一つの変化が思わぬところに影響を与える社会になっています。これは良くても悪くても目に見えない繋がりが存在していることの証です。我々の生活もこの地域社会において多くの方々と目に見えない繋がり（連帯、連携）の中にあります。

『我々が生活する中でよく口にする“お陰さまで”という言葉があります。“〇〇のお陰です”とか“お陰さまで〇〇しました”等と使われますが、説明しにくい目に見えないつながりをお陰様と言っているのです』（薬師寺執事長 山田法胤）。

信和会の各事業も 地域の方々、利用者のご家族、職員の目に見えないつながりのなかで運営されており、その結果 施設入居者及び利用者にとって楽しく、快適で安心して毎日が生活できる施設になっているのです。

信和会は昨年25周年の節目の年を迎えました。創設以来25年の歴史の中で培われた経営基盤を基にこれからの信和会のあるべき姿、目指すべき業容について、平成22年を起点とした経営3カ年計画を策定いたしました。その計画を基本としてさらに長期的な観点に立ち、障害者支援施設 穴山の里、多機能型事業所 わ〜く穴山の里、特別養護老人ホーム 穴山の杜の3事業の将来像についてそれぞれの事業形態に伴った特徴の洗い出しを行い、その特徴を生かしたより発展的な将来計画の策定を行いたいと思います。今までは施設内での事業を中心とした経営計画でしたが、これからの経営の視点として、より地域と一体となった信和会運営を心掛けることが大切だと考えます。すでに職員数100人を超える法人に成長してまいりました。この人的資源を地域の方々と連携して、皆様のお役にたてる法人を目指せればと考えています。

老人問題を例にとりますと 確実に進行している少子高齢化、核家族化、高齢化に伴う老老介護問題、日常生活品の買物や食事、通院に要する交通問題など直面するであろう問題が山ほどあります

これから10年、15年先のこの地域の予想される姿を想定し、そのときに直面する問題を抽出し信和会が果たすべき役割、地域の方々のお役にたてることは何か、行政との密接な連携の在り方、情報の収集発信、地域に根付いた事業活動とは何か等々、多くの方々のご意見やお知恵をお借りしながら幅広く議論することができればと考えています。小さなことでも実行できる答えを出し、やがてこの地域の方々が“お陰様で”とお互いが感謝できる社会の実現のために少しでもお役にたつ信和会でありたいと考えております。

本部だより

社会福祉法人 信和会 法人本部
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
TEL0551-25-6100
E-mail: honbu@sip-shinwakai.jp



理事会・評議員会報告

開催日：平成23年3月26日（土）

開催場所：穴山の杜 集会室

- 審議事項：(1) 平成22年度 補正予算（案）について
(2) 平成23年度 事業計画（案）について
(3) 平成23年度 予算（案）について
(4) ケアホームについて
(5) 人事について
(6) その他



今年度最終となった理事会・評議員会では、平成22年度の補正予算（案）、平成23年度の事業計画（案）、平成23年度予算（案）について十分審議のうえ可決されました。また、6月より「ケアホーム宿尻」も事業開始に向け準備を整えて参ります。また、旧穴山公民館について、韮崎市より有償にて福祉活動目的で譲渡を受けました。駐車場については、今後も従来通り地域の皆様にもご利用いただけますので、ご活用下さい。



新社会人の抱負



穴山の里：栄養士 渡邊 綾（山梨学院短期大学卒）

この度、私は穴山の里の栄養士として働くことになりましたが、その中で特に私自身が大切にしていきたいと考えているのが、施設利用者との時間です。そして、施設利用者の一人ひとりときちんとコミュニケーションをとり、常に相手のことを思えるような栄養士になりたいと思っています。また、新社会人として自らの仕事に責任を持ち、会社の一員として社会に貢献できるよう、精一杯頑張りたいと思います。



穴山の里：支援員 山口 祥子（山梨学院短期大学卒）

はじめまして、山口祥子です。学生時代の実習で、福祉の仕事に関心を持ち、それが夢となり現実のことになりました。実際に携わることができ、幸せに思います。まだまだ分からないことが一杯ですが、皆様方にご指導頂き、利用者とのコミュニケーションをとりながら笑顔を絶やさず、良い支援を行えるよう努力したいと思います。力一杯、元気一杯で頑張ります。よろしくお祈いします。



穴山の里：支援員 松井 由真（山梨学院短期大学卒）

山梨学院短期大学を卒業しました松井由真です。保育科で2年間勉強してきましたが、実習を通して障害者施設で働きたいという気持ちが強くなりました。コミュニケーションをとり、信頼関係を築きながら、利用者の生活にかかわっていきたく感じました。一人ひとりに合った支援・援助ができるよう、職員の方の支援を観察し、できるだけ早く仕事を覚えたいです。毎日笑顔で元気に、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。



穴山の里：支援員 櫻井 優子（帝京第三高等学校卒）

はじめまして。帝京第三高校を卒業しました櫻井優子です。「穴山の里」での抱負・意気込みは、常に笑顔で穏やかな気持ちで利用者として接していきたいです。社会人として辛いことや大変なこともあると思いますが、乗り越えていきたいです。支援の技術はまだ未熟ですが、先輩方から多くの知識を吸収し、早く施設の仕事に慣れるよう頑張りたいと思います。これからよろしくお願い致します。



穴山の杜：介護士 藤橋 翠（帝京医療福祉専門学校卒）

私が、介護福祉士を目指したきっかけは「笑顔」です。利用者や利用者のご家族や地域の方々との交流の中で、笑顔を発揮していきたいと思っています。学校での学びや施設実習での学びを生かし利用者の生活の手助けになるよう努力していきたいです。何事にも時間をかけて様々なことを覚えていきたいと思っています。戸惑いも多いと思いますが、社会人としての自覚を持ち言葉遣いなどに注意したいと思います。よろしくお願い致します。

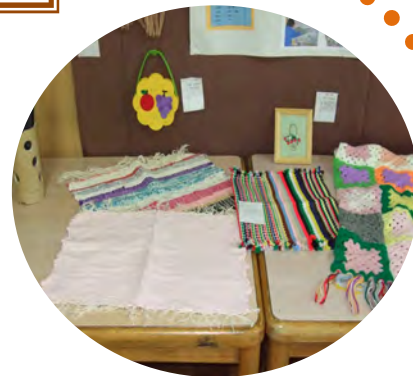
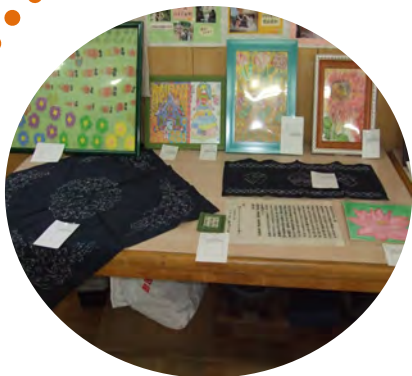


穴山の里だより

障害者支援施設 穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 5164
TEL0551-25-5900
E-mail : sato@sip-shinwakai.jp



穴山の里文化祭作品



毎年恒例の穴山の里文化祭！
展示では、利用者さんが余暇や趣味の活動を通して作り上げた作品はもちろん、日ごろの活動の中での利用者さんの生き生きとした表情を捉えた活動紹介の展示も行いました。
発表では、穴山の里太鼓に音楽クラブによる合唱及び楽器演奏もあり、大きな歓声や拍手が聞こえました。展示・発表共に、利用者みなさんの一年間の頑張りがとても伝わってくる文化祭となりました。



救命指導を受けました

3月1日の防災訓練に合わせ韮崎消防署職員を招いて、就職3年以内の職員が心肺停止の状態からAEDを使用しての心肺蘇生訓練指導を受けました。
声のかけ方、対応の仕方や手順、AEDを使用する上での諸注意など詳しく教えて頂きました。
法人でもAEDを設置しているので、これからは自信を持って対応し、もしもの時には、施設外でも率先して行動出来るように心がけたいと思います。

桜の学校へ参加して



三森 正江

桜（関山）を使用し、4月に花の塩漬け、6月に梅干作り、また11月は紅葉した葉で桜染めをしました。そして2月には桜の枝を使った編み機を作り桜染めした毛糸で編み物を行いました。参加してからは桜の魅力がより一層増し、今まで以上に桜が身近に感じます。また今回学んだ事を施設での日中活動やクラブ活動で生かして今度は利用者の皆と楽しみたいと思いました。



さくら染めたハンカチ



さくら植樹祭

3月6日、穴山駅から良く見える能見城跡で行われたさくら植樹祭に参加しました。急な斜面に踏ん張って、一生懸命穴を掘り、穴山の里では5本の苗木を植えて来ました。総勢122名で芽吹いたばかりの80本のさくらを植樹したのでこれから先、穴山駅からの眺めが一段と素敵になるのが楽しみです。



りの80本のさくらを植樹したのでこれから先、穴山駅からの眺めが一段と素敵になるのが楽しみです。

わ〜く穴山の里だより

多機能型事業所 わ〜く穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
TEL: 0551-25-5866
E-mail: work@sip-shinwakai.jp



新体系に移行して2ケ年が経過し、3事業（生活介護・生活訓練・就労継続支援B）もそれぞれ新しい活動に取り組み始め、変化のある楽しい日中生活になってきていますので来年度はその見直しを進め、新たな取り組みにも挑戦して行こうと思います。（写真は施設内での余暇活動・生活訓練の様子です）

又施設経営面から見ると新たな事業展開も行い、ご利用者の要望にそった支援と事業収入の増加と安定を図り地域に根ざした、利用者から選ばれる施設を目指し職員一丸となって取り組んで行きたいと思っています。



恵方巻き作り



余暇活動



小物作り・粘土細工



実習生お別れ会

この施設で働くまでは、経験したことがなかった職場に最初は戸惑いと不安な気持ちの連続でしたが、先輩にご指導頂きながら私なりに模索した3年が終わろうとしています。ご利用者への声掛け方法また作業に於ける指導支援方法など、まだまだ勉強途中ですが、努力を怠らず、また作業的にならず、ご利用者の皆さんの個々の気持ちを大切に、前向きに取り組むご利用者から喜ばれるまた選ばれ、地域に根ざした施設を目指していきたいと思います。

生活支援員 秋山 由加



穴山の杜だより

特別養護老人ホーム穴山の杜
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
TEL0551-25-6100
E-mail : mori@sip-shinwakai.jp



東日本大震災という大きな震災後、穴山の杜でも計画停電が実施されました。
電気の大切さと電化製品主体の生活を強く感じました。

そんな中でTV やラジオからとても印象に残るコマーシャルメッセージが流れています。

「こころ」はだれにも見えないけど、「心づかい」は見えてくる
「思い」は見えないけど、「思いやり」はだれにも見える
「気持ち」はおこないになって、はじめて見えてくる
その「気持ち」をかたちに

被災者の皆様、また身近にいる介護を必要としている方々に、私たちが「かたち」として
あらわしていきたい。いまこそ、「できることから始めよう」を実践しましょう。



社会人2年生、一年を振り返って

鶴1丁目 介護士 篠原 沙織

昨年4月に穴山の杜に就職し、鶴1丁目を受け持つことになり、最初の頃は不安と緊張でいっぱいでしたが 職員の方々の指導のもと、身に付くことが沢山あり、利用者への接し方や一人ひとりの介助の仕方を見て、その人のニーズに合った援助をしていることを最初に学びました。覚えることも沢山あり、食事形態、オムツの人、トイレ誘導の人、入浴方法、薬の確認や勤務ごとの役割などメモ帳を見て、職員の動きを見て覚えて行きました。

失敗して注意された事もありましたが、「失敗したっていい、次に失敗しないようにすれば」と言う職員の方の言葉で気持ちも前向きに考えられるようになりました。初めての夜勤では、不安もありましたが2人だったので安心感もありました。

最初は、利用者一人ひとりについて、分からないことばかりだったのであれやこれやとなんでも手助けをしてしまい 残存機能の維持にならなく、本当に必要なことを見極めるのに時間がかかりました。また、利用者の目線で考える大切さを学びました。日々状態が変わっていく入居者をよく観察し、一人ひとりの声に耳を傾けて、利用者が楽しく過ごせるようにこれからも心がけていきたいです。

1年を通して様々なことを学び、情報交換の大切さや観察することでより相手を理解でき、身体面、心理面まで分かっているのだと思いました。これからも、焦ってしまったり、失敗をしてしまうことがあっても、今まで学んで身に付けてきた事を活かしていけるよう頑張りたいです。

亀2丁目 介護員 平賀 みずほ

就職当初、念願の介護職につくことが出来とても嬉しかった反面、しっかりと仕事をこなしていけるかと不安でした。実際、現場で仕事をしてみると何もかもが初めてのことで、一つ一つの介護が上手く出来ず、なれるまで大変でした。日々苦戦し悩んでは職員の方々からアドバイスをいただいたり、諸先輩方の話を聞くと気持ちが楽になり少し余裕を持つ事ができました。

それからは利用者と話しながら仕事をこなしていけるようになりました。

今年の目標は二つあります。

一つ目は、就職して一年が経ち環境にもなれてきた所で、今年は亀フロアのレクレーション係に選ばれたので他の職員と一緒に季節にあわせた内容を考え、利用者の皆さんに楽しんでいただけるようにしていきたいと思います。

二つ目はまだまだ慣れない事があり、いまだに利用者の性格や人柄が分からない事があるので今まで以上に利用者とのかわりを多く持ち、理解するように努力をしていきたいです。

この仕事を一年間試してみても職員間のコミュニケーションや情報交換などが大切だなと思いました。



2月3日 今年も皆の幸せを願う行事の一つ「節分」が行われました。

男性職員扮する、青鬼赤鬼が暴れる中「鬼は～外」、「福は～内」の元気な掛け声とともに、利用者の皆様で豆ならぬカラーボールを力いっぱい投げ、みごとに鬼を退治しました。利用者の勢いに鬼たちもタジタジの様子で逃げ出しました。

節分当日は、イワシと豆ご飯、恵方巻きが提供され、今年一年の健康を祈願しながらいただきました。



被災地の利用者を受け入れて

生活相談員 野澤 佐知子

3月11日14時46分、東日本大震災。誰もが恐怖を感じた一瞬でした。穴山の杜も翌朝まで停電という初めての事態に、対応に四苦八苦しました。被災地となった東北地方の状況は、想像もつかないほど荒れ、目に焼き付き、何かできることはないのか・・・と毎日胸が痛くなります。

そんなことを考えていると、被災地から避難してきた家族から施設を利用したいとの連絡が入りました。山梨県に確認、居宅介護支援事業へ連絡、そこから蕪崎市地域包括へ連絡、担当ケアマネージャーが入り、サービスが可能となり、翌日早速受け入れを行いました。聞くと、福島県いわき市に住んでおられ、地震・津波の被害ではなく、原発により外へ出ることができず、水も手に入らないことで、身内のいる蕪崎へ10名で避難してきたと言う。避難場所は総勢13名、団地での生活。車椅子生活の夫をベッドでゆっくり休ませたいという気持ちで、妻と娘が利用できる施設を探し、今回の利用となりました。元々口数の少ない方であったため、初日は緊張がこちらまで伝わり、戸惑いを感じました。しかし、介護職員の働きかけで、徐々に笑顔が見られ会話も弾むようになり、現在は違和感はありません。

今回の災害で、介護を必要されている方は、一体どのくらいいるのであろうか。山梨県からの避難されている要援護者の受け入れ調査に、穴山の杜も最大の受け入れ人数を示しました。一人でも多くの人を受け入れ、最大限のサービスを提供していくことが、地域に根ざした施設、開かれた施設ではないかと思います。ただ現在利用されている方たちへのサービスも決して忘れてはならないのと物の充足も必要ではあるが、それ以上に利用される方たちの心を満たすサービスが大切だと思います。人として、全力で協力し、支援していきたいと思います。



感謝録

(平成22年12月16日から平成23年3月15日)

～ご寄付を頂きました～ (敬称略)

☆ありがとうございました。感謝いたします。

森 建・古内保明・橘田禮子・足立一正・中村正信・長田一人・
小尾豊文・石井正紀・春本のり子・貝瀬勝政 (デイリーヤマザキ武
川店)・小池一・木村禎子・フードバンク・葺崎調剤薬局・東京善
意銀行より、アディダスジャパン (ジャイアンツグッズ) 鷲宮神社

～ご協力を頂きました～ (敬称略)

☆ボランティア

千野公洋 (太鼓指導)・石澤一恵・横内公子 (音楽ボランティア)・
佐藤真弓 (ミニコンサート)・陸上自衛隊北富士駐屯地

訪問録

(平成22年12月16日から平成23年3月15日)

☆教育実習 (敬称略)

小川雅子・植松育哉・高田美穂・柳本英子
(県立就業支援センター)
道場貴之・城園真由美 (帝京短期大学)
田中友紗・塩川知美 (聖セシリア女子短期大学)
佐藤康平 (帝京科学大学) 伊藤大地 (長野大学)
立野 友香里 (聖徳短期大学)
平井里奈・若尾早希・望月遥 (山梨学院短期大学)
秋山菜央・興石愛 (帝京短期大学)
丹治恒太・矢吹武志 (彰栄保育福祉専門学校)
小林恵子・小瀬村美苗・井原加奈絵・小林豊美・唐
美芬・鈴木巧哉・金丸弘子・長谷川由貴
(優和福祉専門学校)

☆体験実習 (敬称略)

小澤登 (かえで支援学校)



3月11日(金) 未だ経験したことのない大規模の東北関東大震災が発生いたしました。この震災によって受けた犠牲は、はかり知れません。この震災によって尊い多くの命が奪われました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。そしてまだ安否の不明な方が多数いらっしゃいます。被災地で避難生活を余儀なくされている方々、住み慣れた故郷を離れざるを得なくなってしまった方々が数多くいらっしゃいます。心よりお見舞い申し上げます。

当法人では、被災地の皆様のため少しでもご協力できることがあれば、どんなことでもさせていただきたいと考えております。この穴山の地でも、何度も計画停電を経験し、電気のある生活を当たり前とっていたことに改めて気付かされました。電気が止まっただけでも不便を感じる生活です。ライフラインの復旧のままならない被災地の皆様の生活を思うと胸が痛みます。何とか私たち一人ひとりのわずかな力、想いかもしれませんが、社会福祉法人信和会の全職員・利用者の祈りと復興への応援の気持ちで、困っている方に届きますよう今何ができるのか全力で取り組んで参りたいと思っております。

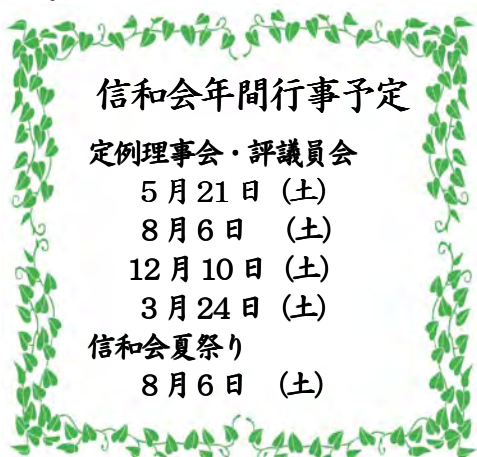
具体的には、被災地からの要支援者の受け入れを積極的に行っていきたいと思っております。障害者支援施設「穴山の里」では、10人程度、グループホームに5人程度、特別養護老人ホーム「あなやま」では、1ユニット2名で合計12名の受け入れ態勢を確立しています。また、当法人からの人的援助も考えており、法人全体では、現地での活動要請に対して5名程度のボランティア職員の派遣を予定しております。

そして、一人ひとりの想いを形にしたいということで、3月17日より義援金を募り、3月31日までに、総額130万円が集まりました。日本赤十字社と知的障害者福祉協会を通して、被災者の皆様に役立てていただきたいと思います。

思いは一つ!! 頑張れ東北!! 頑張れ日本!!

今こそ、私たち日本国民全員が一、人一人心を合わせて力強く、精一杯生きていく時ではないでしょうか。

掲示板



信和会年間行事予定

定例理事会・評議員会

5月21日(土)

8月6日(土)

12月10日(土)

3月24日(土)

信和会夏祭り

8月6日(土)

～編集後記～

この季節、栗原信雄会長宅の庭先に毎年必ずその清楚でありながら可憐な紫の花を開く「かたくりの花」。全ての花は咲く時を知り、美しいその盛りを迎えます。花は花自身の美しさを知らず花を咲かせるものです。それ故に花は美しいのかも知れません。



当法人もまた、新年度を迎えました。新しい職員も増え、今年もそれぞれの花を咲かせながら、信和会という大きな花をこの穴山で咲かせることができるように尽くして参ります。(栗原 麻美)